

2024「いのちまもる医療・介護キャラバン

元気に訪問中！



医療・介護の充実をめざし、共同の輪を広げてきた「医療・介護を守るキャラバン行動(病院、老健施設、地区医師会、医療・介護団体などへの訪問行動)」は、2020年から3年間、新型コロナウイルス感染症の影響による訪問中止があったものの、1987年から開始し、37年が経過しました。

今年も6月5日から7月3日までの期間で第一日赤職労・第二日赤労組・桂病院労組・全JCHO京都支部・ふるさと病院労組・洛西ニュータウン病院労組・ルネス病院労組・京都民医労などからの参加で、京都府下約260カ所を8日間・32コース・参加延べ80名以上で、訪問・対話行動を行っています！参加のみなさん、大変お疲れ様です！

訪問対話行動での懇談で出された声(一部抜粋)

- コロナ5類後も、高齢者対応は流行中と同じ対応が必要。材料費なども同じように必要。
- 水光熱費・食材の値上げが心配。報酬や補助金は知っている。他産業だと価格転嫁できる。施設でも利用料金引き上げるのは簡単だが、実際に上げることはなかなかできない。
- 患者増えていない。人員体制については厳しい。募集しても応募がない。
- 職員の確保は、介護職員・看護助手の採用に苦戦。
- ハローワークからも応募なく、募集してもなかなか集まらない。
- 人材確保困難。紹介業者利用で常勤採用すると100万くらい業者に払うことになる。
- 看護師不足で紹介業者でも厳しくなり「応援ナース」使うようになった。手数料は20～30%と高額。その費用があれば職員に還元したいが、募集しても来ない。



- ベースアップ評価料算定した。事務作業に非常に手間がかかる。
- ベースアップ評価料は非常に煩雑だが担当している事務職員は対象外で不満。
- 全職員の賃金を上げる(ベア)判断をしたがとても足りない。初・再診料も使うが足りない。他業種との差がひろがるばかり。
- ベースアップ評価料対応は国が続けていくか疑問あるので特別手当で支給。
- 国はDXについていけない診療所やクリニックはふるい落そうとしているように思う。
- 医療の質が上がるように、もっとマスコミに上げてほしい。